

或鷹書ハ鷹
の卵を懷中
に抱キテ
是則信濃國
根津甚平と
人云テ手向丸と
云鷹の卵を
抱キテ
云云

此書と君侯

いふやうに何とあれや何とあるやとむしと云ふや名つをさめらん

古註ハ蘇方明神小つうも鷹の異名と云何うより云ふや

いひてあやも未富今ハ想く鷹の名ハそれ出所の名を

名とて又十二支のやとてさへも何とて萬葉集十九卷

家持卿の長哥中を安我大黒と鷹の名をあり此も向丸ハ

よくいふやとて拳ハ来と居るやとて向安とてより名附

一も成べし古写本の註中を鷹のつとてとてちやとて

名とて向丸とてや秘くよとてやとてやとてやとて

これと向丸とて祚とて向丸のやとて世俗とて鷹と祚と